第４講
東ヨーロッパ・CIS・カナダ

［1］ ヨーロッパ全体における東ヨーロッパ諸国の特徴を意識してみよう。

東ヨーロッパ6か国では，かつてソ連の影響下で社会主義政権が成立していたが，1980年代末より自由化の波が訪れ，全て資本主義国へと転換した。いずれもEUおよびNATOに加盟している。

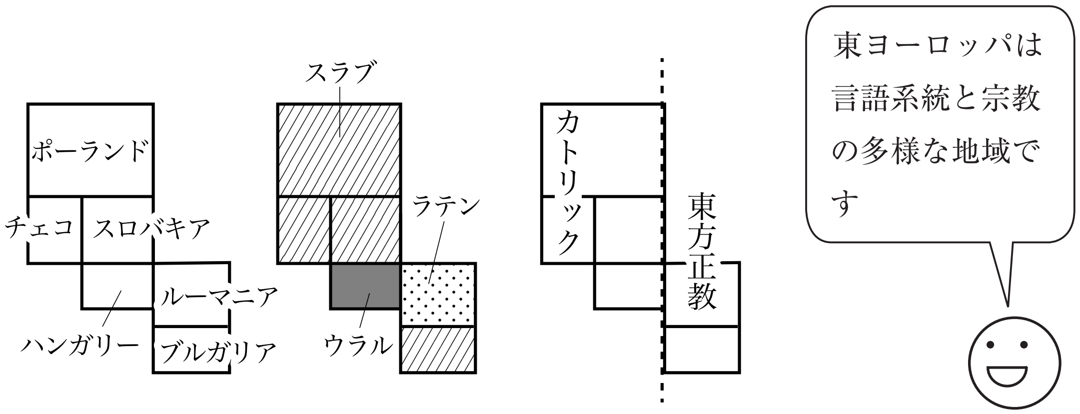
１人当たりGNIは概して低いが，安価で豊富な労働力が得られるため西ヨーロッパ諸国からの工場進出が盛んで，特にチェコは自動車工業が発達する。第２次産業就業人口割合も高い。一方で，高賃金国への出稼ぎの流出も顕著である。

各国とも言語系統・宗教(宗派)に特徴があるので，人口規模と合わせて以下に整理する。

・ポーランド(4000万人)・・・スラブ系・カトリック
・チェコ(1000万人)・・・スラブ系・カトリック
・スロバキア(500万人)・・・スラブ系・カトリック
・ハンガリー(1000万人)・・・ウラル系・カトリック
・ルーマニア(2000万人)・・・ラテン系・正教
・ブルガリア(500万人)・・・スラブ系・正教

ドナウ川は国際河川であり，東ヨーロッパを貫く。ウィーン(オーストリア)，ブダペスト(ハンガリー)，ベオグラード(セルビア)などが沿岸に立地し，黒海に注ぐ河口は三角州。運河によってライン川の支流と連結する。

カルパティア山脈はポーランド南部からルーマニアに至る険しい山脈。ヨーロッパにおいて，最も北に位置する新期造山帯である(ただし火山はない)。



［２］

・ウクライナ・・・黒海北岸に位置する旧ソ連構成国。資源に恵まれ鉄鋼業が発達するほか，肥沃な土壌を利用した穀物の栽培も盛ん。

・バルト３国・・・エストニア・ラトビア・リトアニア。いずれも旧ソ連構成国だが，ソ連崩壊前に連邦を離脱し独立。CISには加盟せず，EUの一員となった。

・旧ユーゴスラビア・・・独自の社会主義路線をとる国であったが，1990年代前半に崩壊。現在は７つの国に分裂。西部のスロベニアやクロアチアではカトリック教徒が多く，東部のセルビアや北マケドニア（＊）などでは東方正教徒が多い。中部のボスニア・ヘルツェゴビナにはイスラム教徒も多く，多様な勢力が対立し内戦が生じた。コソボはセルビアから分離独立した国で，イスラム教徒が多い。

（＊）2019年にマケドニアから改称。

［３］ ロシアの都市について整理しよう。

・モスクワ・・・首都にして人口最大都市（1000万人以上）。政府機関を中心として放射環状路型の街路区画を有する。

・サンクトペテルブルク・・・ロシア第２の都市で，バルト海に接続するフィンランド湾に面する。ただし，冬季は凍結する。帝政ロシアの都であり，西ヨーロッパとの交流の窓口だった。

・イルクーツク・・・シベリア南部の都市で，バイカル湖に接する。周辺は森林で，製紙・パルプ工業が発達するほか，水力発電によるアルミニウムの精錬も行われる。大陸性気候がみられ，寒暖差が大きい。夏には一定の降水があるが，冬季はシベリア高気圧により少雨となる（おおよそ最暖月平均気温20℃，最寒

月平均気温－20℃，年降水量500ミリ）。シベリアの広い範囲に永久凍土層がみられるが，その南限はバイカル湖付近である。

・オイミャコン・・・シベリア東部。北半球の寒極であり，最寒月の平均気温は－45℃程度まで低下する。

・ウラジオストク・・・日本海に面する港湾都市で，シベリア鉄道の東側の起点。軍港として発達したが，港湾は冬季凍結する。

［4］　a はキーウでウクライナの首都。ウクライナは巨大な鉄山（図中あ）と炭田（い）を有し鉄鋼業が発達。チェルノーゼムに恵まれ，小麦やトウモロコシの栽培も。

　b はバクーでアゼルバイジャンの首都。油田に近接。世界最大の湖であるカスピ海は原油や天然ガスの埋蔵が多く，周辺国の間で採掘権をめぐって対立も。

　c はモスクワ，g はイルクーツクである。

［5］　旧ソ連の南部が中央アジアであり，カザフスタンやウズベキスタンが含まれる。少雨地域であり，北部でステップ，南部で砂漠となる。シルクロードに沿いイスラム教が伝えられた。ウズベキスタンの首都タシケントは交易都市として発展。現在は綿工業など。

［6］ 南北アメリカ大陸の先住民のルーツはユーラシア大陸のモンゴルにあるといわれている。最終氷期に陸化していたベーリング海峡（ユーラシア大陸と北アメリカ大陸の間）を伝って移動した。北極海沿岸がイヌイット（エスキモー），カナダ南部からアメリカ合衆国がネイティブアメリカン，メキシコ以南（カリブ海含む）がインディオ。

［7］ カナダの自然環境。広く亜寒帯（冷帯）気候がみられタイガ（針葉樹の純林）に覆われているが，北極海沿岸はツンドラ。

太平洋岸にはフィヨルドが広がるが，暖流の影響で温暖多雨となっている。西部は新期造山帯の険しい地形で，太平洋岸には火山もみられる。西経100度に沿う中央部は春小麦地帯。ウィニペグなど。五大湖周辺は大陸氷河に覆われ，酪農地帯となっている。北東部のラブラドル半島は楯状地（カナダ楯状地）。五大湖と大西洋をつなぐセントローレンス川の河口はエスチュアリーである。

［8］ カナダの言語と民族。カナダでは英語の使用人口が多いが，東部のケベック州はフランス系住民が多くフランス語が公用語とされている。

また，北部のヌナブト準州ではイヌイットによる自治が行われている。

［9］ カナダの都市。

・バンクーバー・・・太平洋岸の港湾都市で，木材の積出港として発展。暖流の影響によって冬季でも温暖。
・ウィニペグ・・・カナダ中央部で，北アメリカのほぼ中央に位置する。春小麦の集散地。典型的な大陸性気候がみられ，寒暖の差が大きい。最寒月平均気温－20℃（アンカレジより低温），最暖月平均気温20℃（サンフランシスコより高温），年降水量500mm。
・トロント・・・国内人口最大都市（都市圏600万人超）。五大湖に接し，アメリカ合衆国より自動車工場が進出。
・オタワ・・・首都。英語圏とフランス語圏の境界に位置。
・モントリオール・・・ケベック州の中心都市。フランス系住民が多い。都市圏人口は400万人を超えるが，経済は停滞。セントローレンス川に沿う。周辺では酪農。

[10]

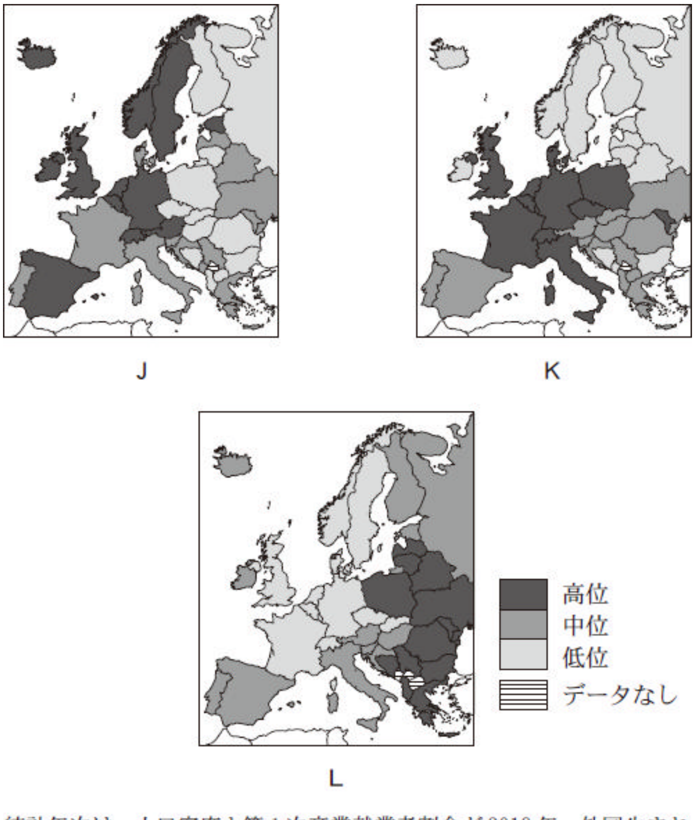
・ムルマンスク・・・ロシアの港湾都市でノルウェーに近い。暖流の影響によって不凍港となる。

・アンカレジ・・・アラスカ州の中心都市。北極海沿岸で採掘された原油がパイプラインによって付近まで輸送されている。かつて日本とヨーロッパをつなぐ航空路の結節点だった。

第４講
東ヨーロッパ・CIS・カナダ［練習問題］

［１］（2022年度地理Ｂ追試験第４問問３）

次の図３中のＪ～Ｌは，人口密度，外国生まれの人口の割合，第1次産業就業者割合のいずれかを示したものである。項目名とＪ～Ｌとの正しい組合せを，後の①～⑥のうちから一つ選べ。



統計年次は，人口密度と第１次産業就業者割合が2018年，外国生まれの人口の割合が2020年。*World Population Prospects* などにより作成。

図 ３

	①	②	③	④	⑤	⑥
人口密度	J	J	K	K	L	L
外国生まれの人口の割合	K	L	J	L	J	K
第1次産業就業者割合	L	K	L	J	K	J

［２］（2009年度地理Ａ本試験第３問問７）

次の図４中に示したＰ～Ｓは，1990年代以降，国家の形態や国家間結合のあり方に変化がみられた国々であり，下の①～④の文はＰ～Ｓのいずれかについて説明したものである。Ｐの国々に該当するものを，下の①～④のうちから一つ選べ。

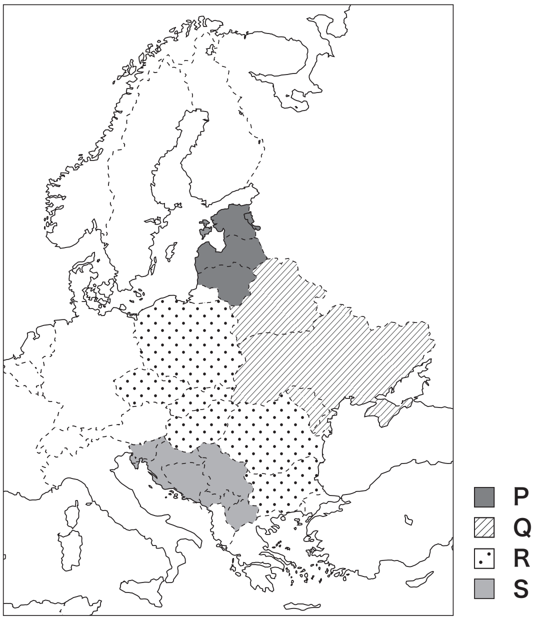


図 ４

① かつてはソビエト連邦を構成する共和国であったが，現在はロシアを中心とする国家連合であるCIS（独立国家共同体）の加盟国である。

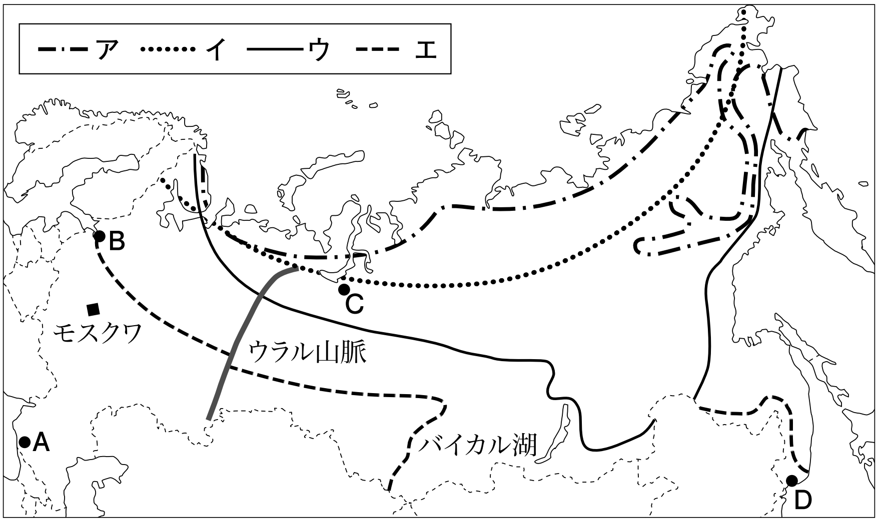
② かつてはソビエト連邦を構成する共和国であったが，以前敵対していた国々と現在は軍事同盟を結んでいる。

③ かつてはソビエト連邦を中心とする軍事同盟の加盟国であったが，以前敵対していた国々と現在は軍事同盟を結んでいる。

④ かつては一つの連邦国家であったが，複数の国家に分裂し，その一部の国は，以前敵対していた国々と現在は軍事同盟を結んでいる。

［３］（2017年度地理Ｂ追試験第４問問２）

次の①～④の文は，図１中に示したＡ～Ｄのいずれかの地域における特徴を述べたものである。図１中のＢに該当するものを，次の①～④のうちから一つ選べ。



Diercke Weltatlas, 2008 などにより作成。

図　１

① 寒冷な気候のもとで，少数民族によるトナカイの遊牧が行われている。

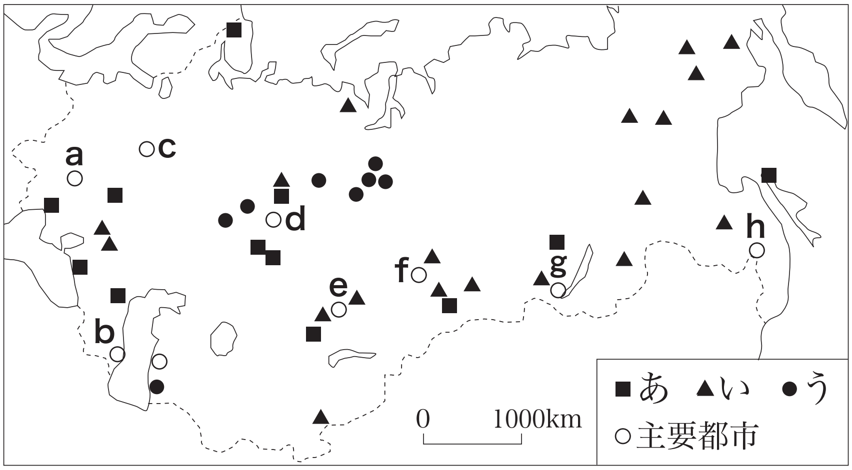
② 自然資源を利用した軽工業が盛んで，シベリア鉄道の起点・終点でもある。

③ 湿地を開発した港を中心に，国内第２位の人口をもつ都市圏が広がる。

④ 比較的温暖な気候を利用した世界有数のリゾート地である。

［４］（1991年度地理追試験第５問問４改訂）

次の文章は，ある工業地域について述べたものである。この工業地域の代表的都市を図１中から選び，これに該当するものを下の①～④のうちから一つ選べ。



「ディルケ 世界地図帳」による。

図　１

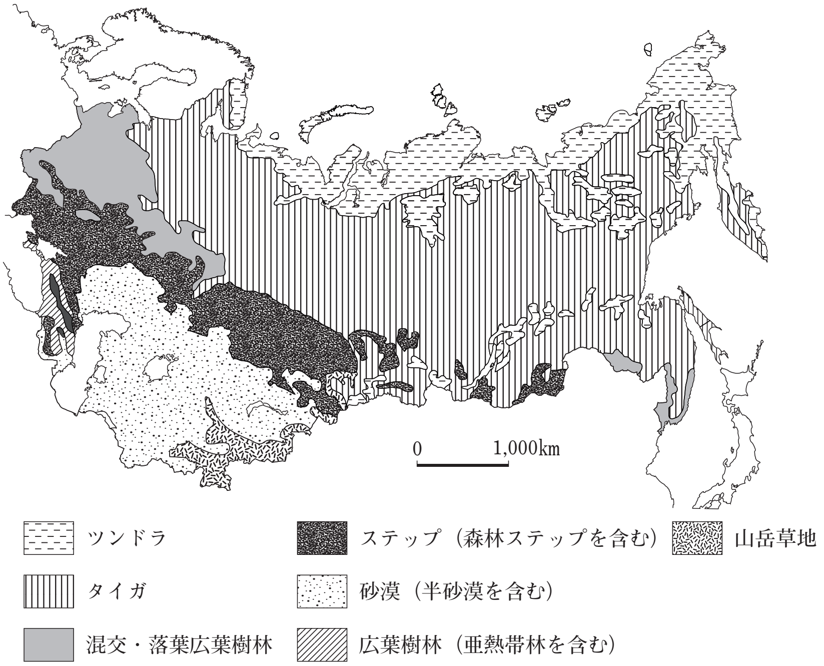
（編集部注：国境線は1991年当時のものとなっています。）

大河川の支流の上流部と湖の周辺部に広がる。豊富な水力と林産資源を基礎に工業が発達し，現在では，製鉄・機械・アルミニウム・製材などの工業がみられる。

① a
② b
③ c
④ g

［５］（1998年度地理Ａ追試験第２問問７）

次の写真２は，図１中の砂漠地帯のあるオアシス都市で写したものである。この写真あるいはその付近の説明として最も適当なものを，下の文の①～④のうちから一つ選べ。



「アトラス現代のソ連邦」により作成。

図　１

写真　２

（編集上の都合により代替写真に差し替えてあります。）

① シルクロードの交易で栄えた時代の伝統を受け継ぐバザールであり，ときおりコーランの一節をよむ声が聞こえてきた。

② 衣料品や食器などに加えて，香辛料やマンゴー，パイナップルなどの特産品も売られていた。

③ 羊肉や鳥肉などが大量に並べられ，名物の豚肉の串焼きは人気が高かった。

④ 付近は社交場であり，その土地に住む年老いた男性が数人ずつまとまり酒を飲みながらおしゃべりしていた。

［６］（2004年度地理Ａ本試験第１問問１）

次の文章Ｊ～Ｌは，図１中のＡ～Ｃ地点付近のいずれかを居住地としてきた，代表的な先住民について説明している。Ｊ～ＬとＡ～Ｃとの組合せとして最も適当なものを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

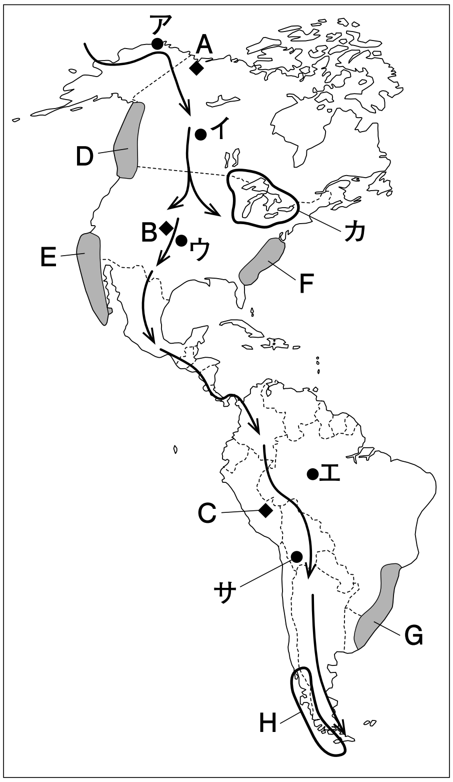


図　１

Ｊ　広範囲に居住し，狩猟など独自の文化を発達させたが，後の移住者に土地を追われ，人口が激減した。現在は居留区（保護区）が設けられている。

Ｋ　山岳地帯を中心に高度な文明を発達させたが，後の移住者による支配を受けた。先住民の生活の改善をめざして，農地改革が行われてきた。

Ｌ　厳しい自然環境に対応し，短い夏季を中心に狩猟・漁労を行ってきた。近年では，外来文化に接触し，生活様式を変化させている。

	①	②	③	④	⑤	⑥
J	A	A	B	B	C	C
K	B	C	A	C	A	B
L	C	B	C	A	B	A

［７］（2009年度地理Ｂ本試験第５問問１）

次の図１中のＡ～Ｄの地域でみられる自然環境の特徴について述べた文として**適当でないもの**を，下の①～④のうちから一つ選べ。

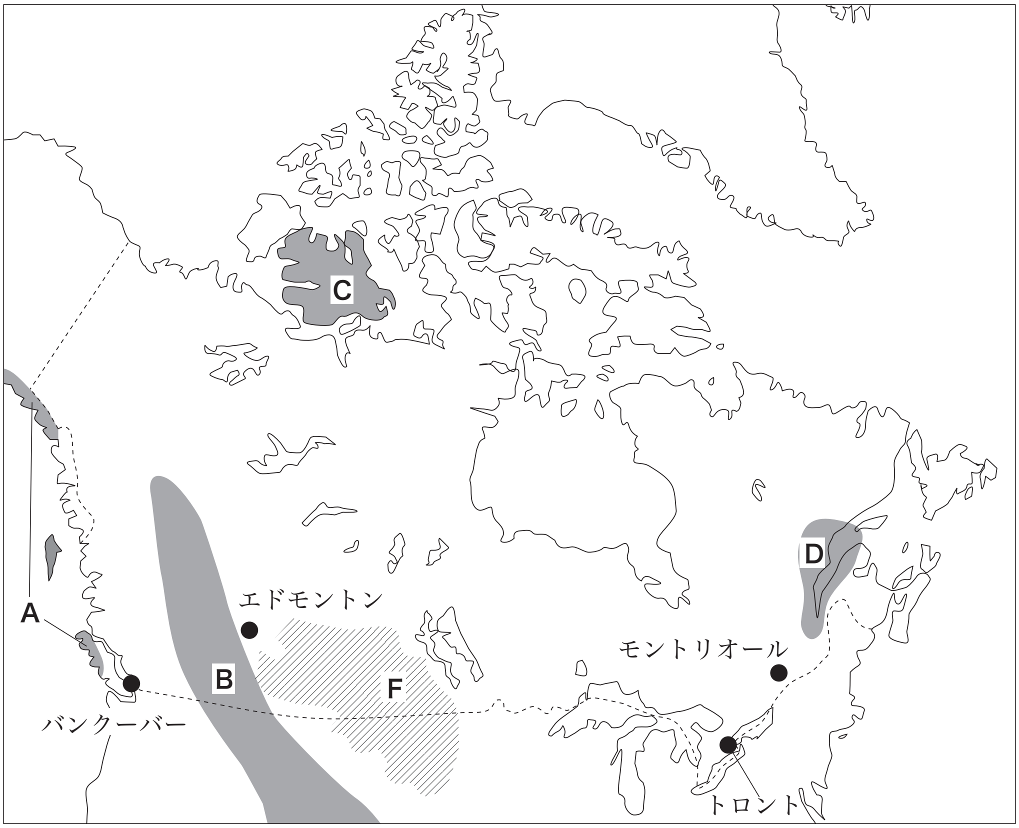


図　１

① Ａの地域は，西岸海洋性気候区に属する。

② Ｂの地域は，新期造山帯の山脈に属する。

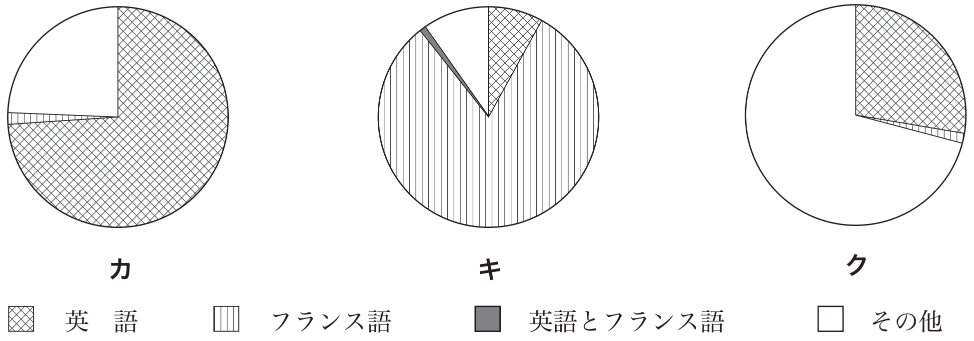
③ Ｃの地域には，針葉樹林（タイガ）が広く分布する。

④ Ｄの地域には，三角江（エスチュアリー）がある。

［８］（2009年度地理Ｂ本試験第５問問５）

次の図３中の**カ**～**ク**は，下の図４中の**Ｐ**～**Ｒ**のいずれかの州あるいは準州における母語(＊)別人口の割合を示したものである。**カ**～**ク**と**Ｐ**～**Ｒ**との正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

(＊)幼児期に親などから初めて習得する言語。



統計年次は 2001 年。

Census of Canada により作成。

図　３

図　４

	カ	キ	ク
①	P	Q	R
②	P	R	Q
③	Q	P	R
④	Q	R	P
⑤	R	P	Q
⑥	R	Q	P

［９］（2004年度地理Ｂ追試験第３問問７）

次の図３中のＷ～Ｚは，カナダにおける主要な４都市を示したものであり，ウィニペグ，オタワ，カルガリー，トロントのいずれかである。都市Ｗ～Ｚについて述べた文として**適当でないもの**を，下の①～④のうちから一つ選べ。

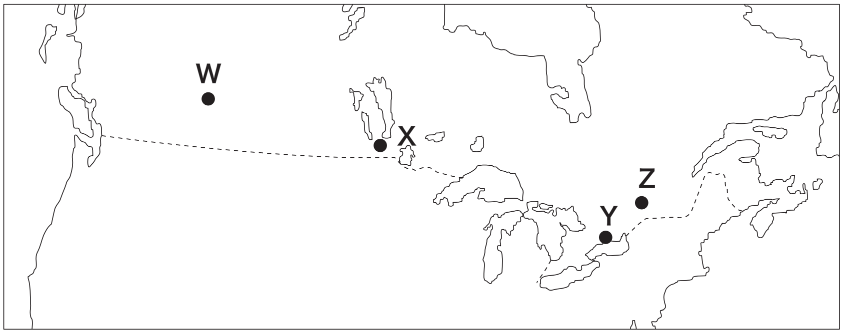


図　３

①　都市Ｗは，新期造山帯に属する山脈の東麓（とうろく）に位置し，石油や天然ガスの主要な産出地となっている。

②　都市Ｘは，春小麦地帯の東端に位置し，小麦の集散地や鉄道交通の要衝（ようしょう）となっている。

③　都市Ｙは，カナダのフランス語圏における最大の都市であり，この国における経済活動の中心となっている。

④　都市Ｚは，ケベック州とオンタリオ州との境界付近に位置しており，カナダにおける政治の中心となっている。

［10］（2015年度地理Ｂ追試験第４問問４）

次の①～④の文は，図１中のアンカレジ，ナルヴィク，ムルマンスク，レイキャビクのいずれかの都市の特徴を述べたものである。ムルマンスクに該当するものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

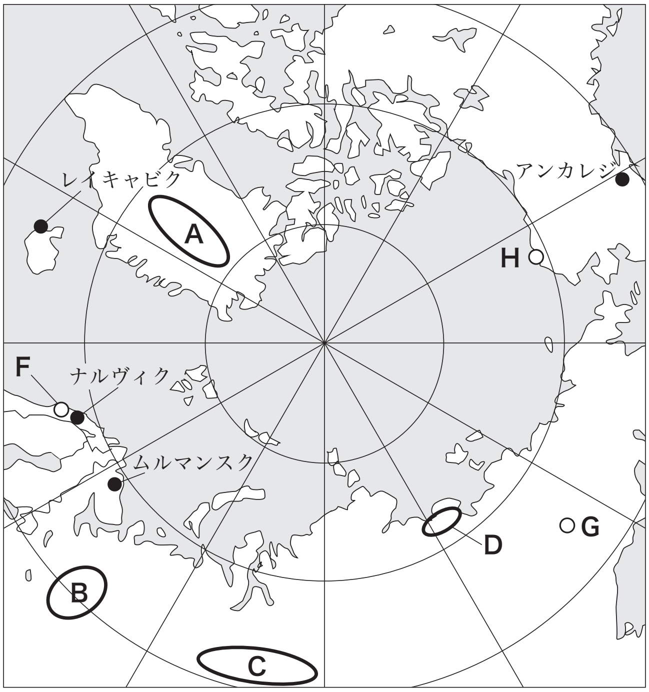


図 1

① 軍港として整備された不凍港があり，トロール漁業の基地としても発展している。

② 国内最大の人口を有し，自然環境や温泉施設などを活用した観光の拠点となっている。

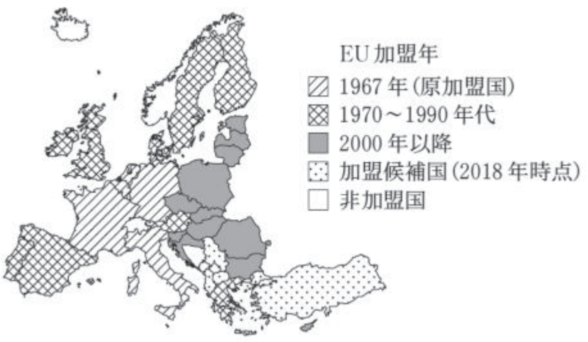
③ 水産業や林業，石油工業が立地し，国際空港をいかした旅客輸送の重要な中継基地であった。

④ 隣国で産出される鉄鉱石を運び出すために鉄道や港湾施設が整備され，積出港として機能している。

第４講
東ヨーロッパ・CIS・カナダ［確認問題］

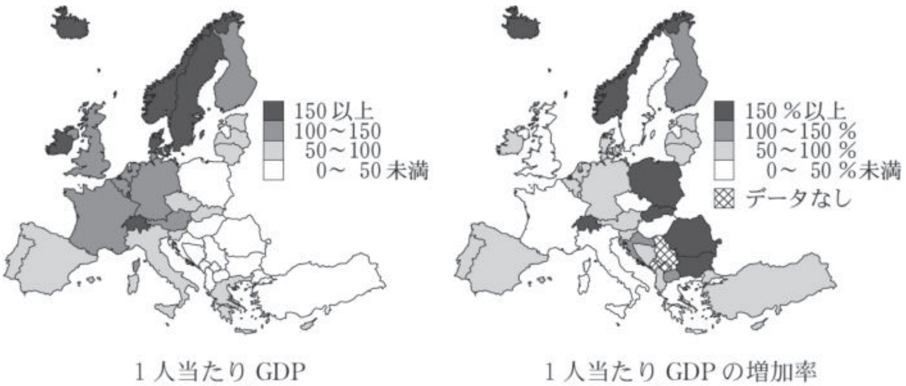
［１］（2024年度地理Ａ追試験第３問問５）

次の図５は，2018年時点における加盟年別のＥＵ加盟国，加盟候補国，非加盟国を示したものである。また，後の図６は，ヨーロッパ各国の１人当たりＧＤＰに関する指標を示したものである。図５と図６に関することがらについて述べた文章中の下線部①～④のうちから，最も適当なものを一つ選べ。



1993 年以前の加盟国は EC への加盟年，ドイツは旧西ドイツの加盟年を示している。
2020 年に離脱したイギリスは，加盟国として示されている。

図　５



１人当たり GDP
（2018 年，EU 全体の値を
100 とした指数）

１人当たり GDP の増加率
（2000～2018 年）

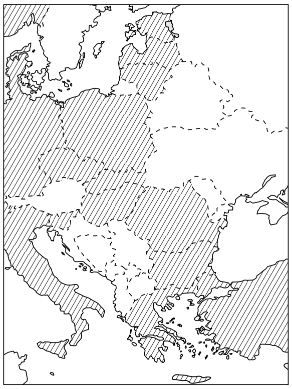
Eurostat により作成。

図　６

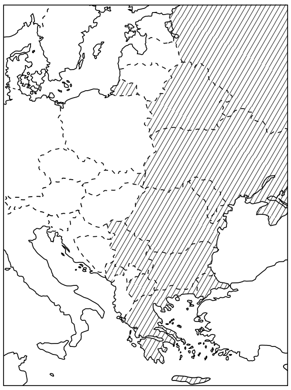
ＥＵは，加盟国の拡大に伴って，域内の経済格差拡大などの課題に直面するようになった。ＥＵ経済の中心である原加盟国の6か国は，①1人当たりＧＤＰと，1人当たりＧＤＰの増加率がともに高い。2000年以降に加盟した東ヨーロッパの国々では，②1人当たりＧＤＰの増加率が高い値を示しているが，1人当たりＧＤＰはなお低い傾向がある。東ヨーロッパの国々には，③加盟後に多くの外国資本が進出し，西ヨーロッパから多くの労働力が流入した。西ヨーロッパのＥＵ非加盟国は，④ＥＵ加盟国と比べて，1人当たりＧＤＰと1人当たりＧＤＰの増加率がともに低く，ＥＵの共通政策と異なる独自の政策を進めるために加盟申請をしていない。

［２］（2005年度地理Ａ追試験第２問問６）

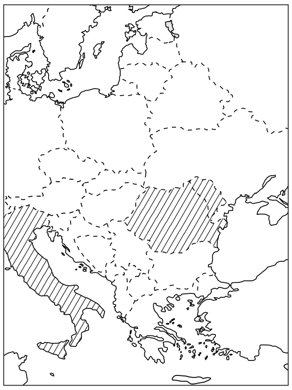
次の図２中の①～④は，東方正教が主な宗教である国，ラテン語（ロマンス語）派の言語が主な言語である国，CIS（独立国家共同体）の加盟国，NATO（北大西洋条約機構）の加盟国のいずれかを斜線で示したものである。東方正教が主な宗教である国を示したものを，図２中の①～④のうちから一つ選べ。



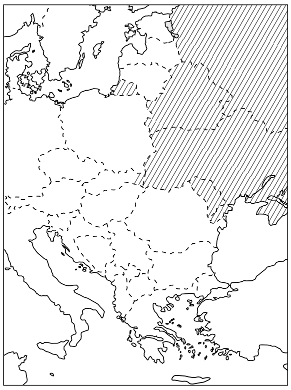
①



②



③



④

図　２

［３］（2001年度地理Ｂ追試験第１問問１）

旧ソ連地域の自然環境について述べた文として**適当でないもの**を，次の①～④のうちから一つ選べ。

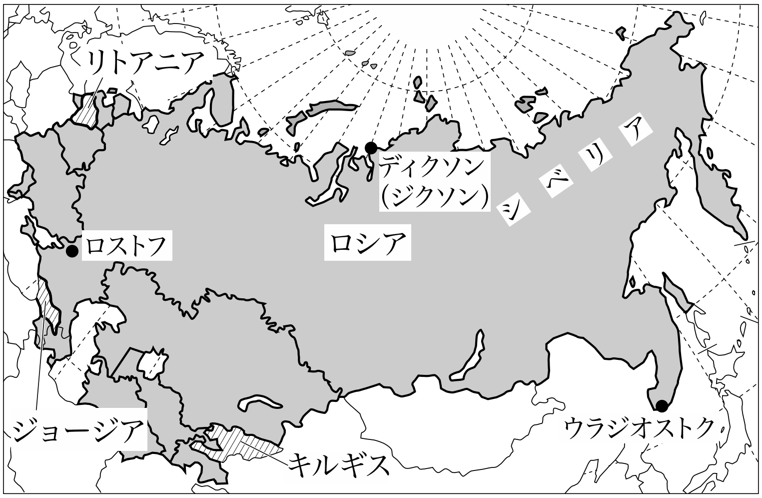


図　1

① この地域の大半は，安定陸塊と古期造山帯からなるが，太平洋沿岸やカフカス(コーカサス)地域では，地震や火山の活動もみられる。

② 黒海北岸から東にのびる穀倉地帯の土壌は肥沃(ひよく)なチェルノーゼムである。

③ ロシアに接する海域は，黒海沿岸を除いて，冬の期間，流氷や結氷によって閉ざされる。

④ 永久凍土は，ツンドラ地帯のみでなくタイガ地帯にも分布している。

［４］（2013年度地理Ａ追試験第３問問５）

次の図２は，図１中のＰ～Ｓのいずれかの都市について，18世紀の景観を描いた銅版画であり，下の文章はこの都市を説明したものである。図２に描かれた都市に該当するものを，下の①～④のうちから一つ選べ。

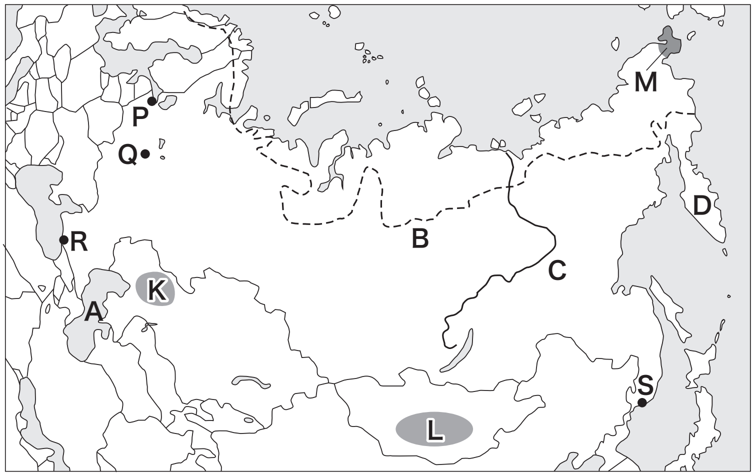


図　１

図　２

（編集上の都合により代替写真に差し替えてあります。）

この都市は，帝政ロシア時代に建設された。フランスの都市計画と建築の様式が導入され，湿地帯に運河網が張り巡らされた。銅版画の正面には海外からやってきた商船が描かれており，この都市がロシアの「ヨーロッパへの窓」としての役割を果たしたことを示している。

①　Ｐ　　②　Ｑ　　③　Ｒ　　④　Ｓ

［5］（2011年度地理Ａ追試験第３問問４）

図１中に示した**タ〜テ**のいずれかの地域における自然環境と産業・生活との関連について述べた文として**適当でないもの**を，次の①〜④のうちから一つ選べ。

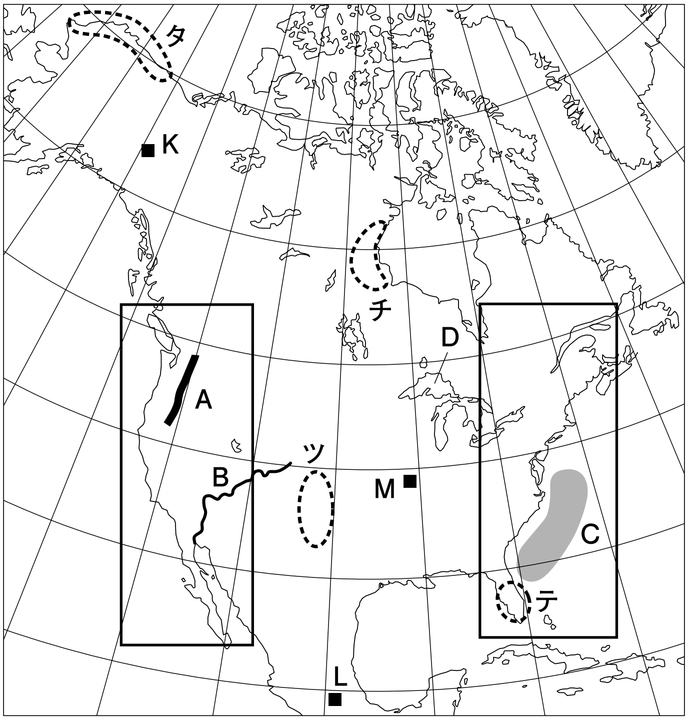


図 1

① **タ**の地域は，北極圏に位置し寒冷なため農業に適さないが，油田や鉱産資源に恵まれている。

② **チ**の地域では，寒冷で平坦な地域が広がるため，春に種子をまいて秋に収穫する春小麦の栽培が盛んである。

③ **ツ**の地域は，乾燥した気候条件にあるが，豊富な地下水と肥沃な土壌をいかした灌漑農業が盛んである。

④ **テ**の地域では，温暖な気候条件をいかした園芸農業が盛んであるほか，海岸沿いには保養地もみられる。

［6］（2011年度地理Ａ追試験第３問問５）

北アメリカ大陸の人の移動，社会・文化について述べた文として下線部が**適当でないもの**を，次の①～④のうちから一つ選べ。

① 北アメリカ大陸の先住民は，太平洋を船で移動してきたオーストラロイドの子孫と考えられており，その一部は北極海沿岸に居住し，現在はイヌイット(エスキモー)とよばれている。

② 北アメリカ大陸では，ヨーロッパ各地から人々が入植した当初，イギリス領，スペイン領，フランス領などに分かれていたが，現在もその名残が地名などにみられる。

③ アメリカ合衆国独立の中心となったイギリス出身者の多くは，白人でアングロサクソンのプロテスタントであることからWASP(ワスプ)とよばれ，社会の中枢をになってきた。

④ アメリカ合衆国に居住するアフリカ系の黒人の多くは，かつて労働力として強制的に連れてこられた人々の子孫であるが，現在ではスポーツ・芸能分野や政府の中枢で活躍する人々もいる。

〈Note〉

第４講
東ヨーロッパ･CIS･カナダ　解答

[１]正解；③

[２]正解；②

[３]正解；③

[４]正解；④

[５]正解；①

[６]正解；④

[７]正解；③

[８]正解；②

[９]正解；③

[10]正解；①

第４講
東ヨーロッパ・CIS・カナダ 解答

［１］正解；②

図５は「ＥＵ加盟年」を示したものである。大まかに，60年代（原加盟）・中央部，70年代・北部，80年代・南部，90年代・北東部，2000年以降・東部の順に加盟を果たした様子を捉える。なお，主な非加盟国にノルウェーとスイスがある。

図６の左は「１人当たりＧＤＰ」を示している。１人当たりＧＤＰは経済レベルのことだが，北部でとくに高く，南部でやや低く，東部でとくに低いことが読み取れる。右は「１人当たりＧＤＰの増加率」を示したものである。元々の１人当たりＧＤＰの値が小さいからこそ増加率も際立って高いものとなることをふまえ，東ヨーロッパ諸国の成長率の高さに注目する。

以上をふまえて，各選択肢を検討していく。

①について。原加盟国はドイツやフランス，イタリアである。１人当たりＧＤＰは高めと見てよいが，増加率についてはフランスとイタリアが最低ランクであるなど，決して高いとはいえない。よって，誤り。2000年の段階でこれらの国の経済レベルはすでに高く，成長の余地が大きくなかったと考えられる。

②について。2000年以降に加盟した東ヨーロッパの国として，ポーランドを例に考える。１人当たりＧＤＰについては最低ランクであるが，その増加率については最高ランクにある。よって，正文と考えられる。旧社会主義国であり元々の経済レベルは低いが，ＥＵ加盟を契機として西ヨーロッパ諸国から工場が進出するなどして，大きく経済力が向上した。

③について。これは図からは判定できないが，経済の原則に従って考える。１人当たりＧＤＰは１人当たりＧＮＩと同じと考えてよく，経済レベルは労働者の賃金水準の目安となる。東ヨーロッパ（ポーランドなど）の方が西ヨーロッパ（ドイツなど）より１人当たりＧＤＰが低く，賃金水準が低いのだから，西ヨーロッパから東ヨーロッパへと労働者が移動することはない。よって，誤文となる。西ヨーロッパから東ヨーロッパへ多くの外国資本が進出したことは間違いないが，それは安価な労働力を求めての機械組み立て工場などであり，現地（東ヨーロッパ）の労働者が雇用されている。

④について。スイスや，広く捉えれば西ヨーロッパの一部であるノルウェーに着目する。１人当たりＧＤＰ，１人当たりＧＤＰの増加率とも，高いものとなっ

ている。よって誤文である。

本問からは，とくに東ヨーロッパ諸国の特徴を読み取ってほしい。ＥＵ加盟は2000年以降であり，この時期から大きな経済成長を果たしているが，現在でもまだ西側諸国に比べれば賃金水準は低く，さらなる工場の進出が考えられる。

[２]正解；②

③の判定が容易。ラテン語(ロマンス語)系の代表的な国はイタリア。イタリアが含まれる①か③のいずれかが「ラテン語系」になるが，①にはスラブ系の言語を使用するポーランドも含まれている点に注目。③が「ラテン語(ロマンス語)派」となる。

さらに④に注目。国は少なく，ロシアやベラルーシなどに限られる。旧ソ連構成国のうち，バルト３国が外れていることから，「CIS」である。

残った①と②の判定だが，ポーランドに注目しよう。ポーランドはカトリック教徒が多数を占める国であることから，ポーランドが含まれていない②が「東方正教」である。ロシアやウクライナのほか，旧ユーゴスラビア東部の国々やギリシャが含まれている。

残った①が「NATO」。NATO(北大西洋条約機構)とは，アメリカ合衆国や西ヨーロッパ，トルコを中心とした軍事同盟であるが，現在はポーランドなど東ヨーロッパ諸国の多くも加盟している。なお，問題が出題された時点では未加盟だったが現在はアルバニア，クロアチア，モンテネグロ，北マケドニアもNATOの一員である。

[３]正解；③

ノルウェーに接するコラ半島の北極海沿岸は，暖流の北大西洋海流が流れ込むことによって冬でも水温が高い。ムルマンスクは不凍港となる。なお，ウラジオストクは１月の平均気温も低く，こちらは凍結する。

①；ロシアは広く安定陸塊だが，ウラル山脈は古期造山帯，カフカス山脈や太平洋岸は新期造山帯。とくに日本の北東に位置するカムチャツカ半島やクリル諸島には火山も多い。

②；黒海北岸から東方に連なるステップ気候の地域には，肥沃なチェルノーゼムが広がる。

④；永久凍土がみられる範囲はシベリアの広い範囲に及ぶ。シベリア南部のバイカル湖周辺などは夏季の気温は比較的高いが，冬季の気温が極めて低いため，

年間を通じて地下の凍土層が融解しない。

［4］正解；①

サンクトペテルブルクである。バルト海に近接し，フランスやイギリスとの交流も盛んだった。ただし，バルト海は冬季に凍結するため，不凍港であるムルマンスク（北極海に面する）の重要性が高い。

［5］正解；②

チの地域は北極海に接続するハドソン湾に面し，寒冷であるため農業は行われない。ツンドラが広がり，一部で狩猟や遊牧が行われる程度。春小麦はウィニペグを中心とした中央部の平原地帯で栽培される。

①；**タ**のアラスカ州北極海沿岸には油田やガス田が分布する。パイプラインによって太平洋岸まで運ばれ，輸送される。

③；**ツ**は，ロッキー山脈の東麓に広がる大平原で，グレートプレーンズとよばれる。やや降水量が少なく（アメリカ合衆国の中央を年降水量500mmの等値線が縦断し，これは西経100°の経線とほぼ重なる），企業的牧畜のほか，地下水を利用した灌漑農業（センターピボット農法）も行われている。ただし，地下水の枯渇による地盤沈下，過剰な灌漑による塩害の発生などの問題も生じる。

④；**テ**はフロリダ半島。亜熱帯～熱帯の気候がみられ，都市出荷用のオレンジの栽培などもみられる（園芸農業）。リゾート地も多い。

［6］正解；①

「オーストラロイド」とはオーストラリア大陸の先住民でアボリジニーなど。イヌイットは「モンゴロイド」とされる。

②；多くがイギリスからの移民による英語起源の地名だが，フランス国王の名前から名付けられたルイジアナ，スペイン語に起源のあるカリフォルニアなどの地名もある。

③；初期に入植したイギリス系の人々は，現在のアメリカ社会でもエリート層を成す。WASPとよばれる。

④；ギニア湾岸にルーツのあるアフリカ系の人々は身体能力が高く，優れたスポーツ選手が多い。また，芸術的素養を発揮する者も多く，音楽などの分野で活躍している。